

東アジア地域包括的経済連携（RCEP）  
第10回中間閣僚会合

共同メディア声明（仮訳）

1. 我々、東南アジア諸国連合（ASEAN）構成国並びに、豪州、中国、日本、韓国及びニュージーランドの閣僚は、2020年6月23日、東アジア地域包括的経済連携（RCEP）第10回中間閣僚会合（テレビ会議形式）の機会に集まった。

2. 我々は、COVID-19の感染拡大が、協調のとれた世界規模の対応が求められる、貿易、投資及びグローバル・サプライチェーンに対する未曾有の挑戦であることを認識した。このことを背景として、我々は、この危機の後に、力強く強靱な経済回復並びに持続可能な、バランスのとれた、及び包摂的な成長を促進するため、協力及び協調を強化することに同意した。

3. 我々は、2019年11月4日の第3回RCEP首脳会議においてRCEP参加国の首脳が指示したとおり、本年にRCEP協定に署名するとのコミットメントを再確認した。現在進行中のCOVID-19の感染拡大に照らしてRCEPの重要性が引き続き高まっており、我々は、この協定への署名が、多角的貿易体制、地域統合及び域内の経済発展への揺るぎない支持の明確なシグナルとなるとの認識を共有した。

4. インドは、2012年のRCEP交渉立ち上げ以来、RCEP交渉の重要な参加国である。我々は、インドのRCEPへの参加がこの地域の発展及び繁栄に貢献すると信ずる。このため、我々は、RCEPがインドに対して引き続き開かれていることを強調したい。

\*\*\*